

平成二十四年 田峯観世音大祭

奉納歌舞伎

観劇のしおり

谷高座

本日の外題

第一幕

ことぶきじょうるりさんばそう
寿浄瑠璃三番叟

第二幕

つり
釣 女 おんな

第三幕

べんてんむすめおのしらなみ
弁天娘女男白浪

いなせがわせいぞろ
稲瀬川勢揃い

第四幕

きいちほうげんさんりやくのまき
鬼一法眼三略巻

いちじょうおおくらものがたり
一條大蔵譚

第五幕

ことぶききちれいそがのたいめん
寿吉例曾我对面

くどうやかた
工藤館の場

第六幕

おうしゅうあだちがはら
奥州安達原（三段目）
そではぎさいもん
袖萩祭文の場

出演者一覽

市川	吉右衛門	(七原)	明郎	市川	憲之助	(柳瀬)	憲康	市川	升蔵	(松井)	祥造	市川	雪之丞	(横山)	康博
尾上	利三郎	(竹下)	晃利	市川	吉十郎	(熊谷)	明夫	市川	香寿美	(丸山)	香澄	市川	勝弥	(神田)	勝哉
市川	寿昌	(高橋)	克己	市川	利十郎	(後藤)	利浩	市川	升義	(近藤)	和義	市川	升三郎	(高橋)	三郎
市川	宏寿郎	(小川)	宏樹	市川	政寿郎	(田村)	政男	市川	政之助	(竹下)	政利	市川	克寿郎	(熊谷)	克彦
市川	清升	(小川)	清和	市川	万之助	(七原)	真樹	市川	寿之助	(熊谷)	浩一	市川	豊之助	(竹下)	裕也
市川	升直	(杉本)	直之	市川	升之助	(七原)	真樹	市川	英之助	(後藤)	英利	市川	芳水	(伊藤)	芳子
市川	和十郎	(竹下)	和徳	市川	真升	(竹下)	真登	市川	仁之助	(加藤)	逸仁	市川	女紅美	(柳瀬)	めぐみ
尾上	晴三郎	(竹下)	晴章	市川	寿三郎	(竹下)	裕造	市川	壽徳	(竹下)	佳徳	嵐	巖延	(丸山)	祐司
市川	巴寿斗	(パトリック)	聖子	市川	七升	(渡辺)	俊也	市川	誠十郎	(近藤)	誠	市川	計恵	(佐々木)	陸人
市川	聖寿	(後藤)	聖子	市川	治之助	(伊藤)	英治	市川	清見	(内藤)	希世美	市川	野里升	(伊藤)	則子

○田峯小学校児童

市川	克希	(後藤)	克希	市川	壮	(田村)	壮	市川	綾美	(近藤)	綾美	市川	広大	(原田)	広大
市川	康佑	(神田)	康佑	市川	実乃里	(山本)	実乃里	市川	裕唯	(竹下)	裕唯	市川	琴麻	(泉保)	琴麻
市川	多貴	(小川)	多貴	市川	都雲	(熊谷)	都雲	市川	都規	(小川)	都規	市川	日菜	(竹下)	日菜
市川	こころ	(熊谷)	こころ	市川	穂澄	(熊谷)	穂澄								

演技指導

市川 寿々女
美満寿

浄瑠璃

竹本 文太夫
竹本 美功太夫
鶴澤 友枝
豊澤 順八

鳴り物

杵屋 健

座長
市川 團寿 (原田 利一)

第一幕 寿浄瑠璃三番叟

翁	市川	豊之助
千歳	市川	真升
三番叟	嵐	巖延
三番叟	尾上	寿三郎
面箱持	熊谷	ひまり
面箱持	泉保	結海



能の翁渡しに取材して、邦楽各流の三番叟は天下泰平、五穀豊穰を祈って舞うものですが、芝居では三番叟が中心になっています。式三番叟は、正徳二年（一七一二）九月、竹本筑後掾が作曲した三笠風流という目録に記されて残っています。正月竹本座で、千歳を若竹武十郎、翁を吉田藤五郎、三番叟を吉田才治の人形によって演じられたのが初めと伝えられています。「三番叟もの」は前述のごとく、天下泰平、五穀豊穰、芝居繁盛を祈って舞うもので、広い意味でご祝儀に用いられました。

田峯では、奉納歌舞伎の序幕に必ず三番叟を踏んで（上演して）いますが、「もみ三番叟」「式三番叟」そして現在の「寿浄瑠璃三番叟（寿式三番叟）」と時の移りとともに変わり、舞手も昨年から六代目へと受け継がれています。昨年は初々しい三番叟と書きましたが、今年はどうでしょうか。

今年もこの四月に田峯小学校に入学する子どものお披露目を兼ねて面箱持ちを行います。今年は二名の新入生が、一生懸命踊りますので、ご声援ください。

第二幕 釣 女

太郎冠者	市川	政之助
醜女	市川	升直
大名	嵐	巖延
美女	市川	清見
後見	市川	宏寿郎

大名が太郎冠者を伴い西宮の戎神社に出掛け、良い妻を得られるようにと祈願すると、お告げとともに釣り竿を授かります。大名が早速釣り糸を投げると、すばらしい美女を釣り上げることができました。

それを見た太郎冠者も、その釣り竿を借りて同じように釣り糸を投げ入れました。主君にあやかつて自分にも美しい妻をと鼻の下を伸ばしている、同じように被衣を目深に被った女を釣り上げることができました。うれしくて有頂天の太郎冠者が「天にあら

ば比翼の鳥、地に又あらば連理の枝、必ずそもじは変わるまいの」と口説くと「何の変わってよいものかいのう」としおらしい。大喜びの太郎冠者が勇んで被衣を取ると、女はなんと二目と見られぬ醜女(しこめ)でした。

前半では美女の口説き、大名の祝言、後半では太郎冠者が女の顔を見ないうちの美女と決め込んだ大喜びの様、そして醜女から逃れようと必死に逃げまどう様、最後は四人しての絡みと追っかけ。谷高座中堅どころと新人の舞踊芝居です。お楽しみください。

第三幕 弁天娘女男白浪 稲瀬川勢揃い

日本駄右衛門	市川	都雲
弁天小僧菊之助	市川	都規
忠信 利平	市川	日菜
赤星 十三郎	市川	こころ
南郷 力丸	市川	穂澄
捕り手 頭	市川	綾美
捕り手	市川	多貴
捕り手	市川	裕唯
捕り手	市川	実乃里
捕り手	市川	琴麻

幕末の戯作者河竹黙阿弥は、その頃の江戸の町民の生活を生き生きと活写し、数多くの名作を残しています。黙阿弥物といわれるこれらの作品は「生世話物」といわれ、七五調の名台詞と様式美の極地といわれる華やかな舞台で高い人気があります。

この幕は、「知らざア言つて聞かせやしよう」の有名な台詞でお馴染みの「浜松屋」の次の場にあたり、捕り手に追われた五人男が稲瀬川の土手に追い詰められ、一人ずつ名を名乗って（名乗り）潔く成敗を受けるといふだけの、正に様式美を見せようとする一幕です。

今年は、一く三年生が重たい番傘ではなく、少し失礼して軽やかに舞傘で登場し、ひたすらに華やかに、ひたすらに御きげんよく、ひたすらにカッコよく、そしてひたすらに軽快に見せてくれます。捕り手は、四・五年生のお姉さんたちが努めます。一生懸命の台詞回しにご期待ください。

第四幕 鬼一法眼三略巻 一 一條大藏譚

一條大藏長成	市川	升之助
吉岡鬼次郎	市川	和十郎
鬼次郎妻	お京	市川 聖寿
八劍勘解由	市川	升三郎
勘解由妻	鳴瀬	市川 勝弥
常磐御前	市川	女紅美



ここは大藏卿の館。牛若の母常磐は、今は阿呆の公卿一條大藏卿の許に嫁いでいますが、毎夜の揚弓にうつつをぬかしています。鬼一法眼の弟吉岡鬼次郎は、妻お京の手引きで大藏の館に入り込み、常磐御前の行状を諷めると、実は清盛調伏（呪い殺すこと）の弓矢だと本心を明かされます。それを聞いた八劍勘解由が、鳴瀬が止めるのも聞かずに清盛に訴え出ようと駆け出すところへ、阿呆を装っていた館の主大藏卿が現れ、薙刀で勘解由を切り捨て、凜然として正体を現し、密かに源氏に心を寄せる本心を打ち明けます。その後、勘解由の首を袖で隠しながら高笑いのうち幕となります。

それぞれの役に仕所があり、どの役も演って気持ちのいい役に作られています。大藏は凜然とした姿と阿呆の使い分け、その変化の妙を見せるのが仕所です。昨年十一月に田峯小学校で歌舞伎教室を開いていただいた中村吉右衛門丈の大藏卿は絶品中の絶品です。

また、上半身の衣装が肩のところまで前後に割れて返り、裏の模様が変わる「ぶつ返り」の技法など、衣装の一瞬の変化によって、視覚の上からも性格の変化を見せようとする優れた技法もお楽しみください。

第五幕 壽吉例曾我対面 工藤館の場

工藤 祐経	市川 克希
小林朝比奈	市川 康祐
曾我十郎	市川 壯
曾我五郎	市川 広大
化粧坂少将	市川 多貴
大磯虎	市川 綾美
近江小藤太	市川 裕唯
八幡三郎	市川 実乃里
大名	市川 七升
大名	市川 誠十郎
大名	市川 治之助
大名	市川 計恵



江戸歌舞伎に欠かすことのできなかつた曾我兄弟の仇討ちの世界を借りた初春狂言の代表的な芝居です。この工藤館の場は、曾我兄弟が父の敵、工藤祐経に朝比奈の取り持ちで会いに来る話ですが、筋よりも江戸歌舞伎の代表的な様式美を見せる芝居で、配役一つにも昔の座組が表れています。

工藤は、源頼朝のお気に入りので、大名の筆頭に任ぜられています。また、今度の富士の裾野での巻き狩りでは、総奉行を命じられています。今日はその祝いのため、大名たちが正装で工藤の館に詰めかけています。工藤が高座へ座すと兄弟が呼び出されます。五郎は工藤を目前に血気にはやりますが、分別高い十郎はこれを諫めて制します。そして、富士の裾野の狩場で討たれてやると本心をのぞかせ、狩場の通行切手を与え、再会を約して幕となります。

十郎の和事の演技、五郎の江戸系の直線的で男性的な荒事が対照的です。青い目の人形のアメリカへの里帰りから一月末に帰国した四六六年生が、校長先生を始めとする男性教員を大名に従えて一生懸命に演じます。ご声援のほど願います。

第五幕 奥州守達原（三段目）袖萩祭文の場

阿部 貞任	市川 寿之助
袖 萩	市川 香寿美
お 君	市川 都規
阿部 宗任	市川 真升
八幡太郎義家	市川 万之助
儻 杖	尾上 晴三郎
浜 夕	尾上 寿三郎
腰 元	市川 野里升
腰 元	市川 芳水
義家家来	市川 巴寿斗
義家家来	市川 政寿郎
義家家来	市川 英之助
義家家来	市川 宏寿郎
仕 丁	市川 豊之助
仕 丁	市川 升義

源義家に父頼時を討たれた阿部貞任・宗任兄弟は、奥州の独立を企て、皇帝環の宮（たまきのみや）を誘拐します。宮の守役儻杖の姉娘の袖萩は、家を出奔して貞任と結ばれ、妹娘の敷妙は義家に嫁いでいます。宮探索の日限も切れ、儻杖は切腹と決まり、既に義家が到着し、貞任も桂中納言に化けて館に入り込んでいます。一方、宗任は一矢報いんと、わざと罪人となって捕まっていますが、義家はそれを承知で宗任を解き放します。今は盲目の女乞食となった袖萩も父の危難を聞きつけ、娘お君を連れて駆けつけますが、儻杖は表向き対面を許しません。宗任に儻杖を討てと言われた袖萩は、父と夫の板挟みとなって自害してしまいます。そして儻杖も切腹。それを見届け立ち去ろうとする貞任を義家が呼び止め素性を見破り、改めて兄弟との戦場での再会を約します。

桂中納言として帰りがかった貞任が「ハテ訝しやなあ…何奴の」と意気込み、ハツとして「仕業なるや」と公卿言葉に戻る演出の妙味、赤旗をかついでの見得など派手な動きをお楽しみください。

青い目の人形里帰りアメリカ歌舞伎公演

田峯小学校に現存する青い目の人形「グレース・A・グリーン」の第八回目の里帰りは、一月十七日から二十六日にかけて行われました。昭和二年にアメリカからやってきた彼女は、御年八十五歳になります。わたしたち田峯小学校と谷高座は、彼女の里帰りに併せて一緒に渡米しました。田峯小学校はシカゴ市近郊のアーリントンハイツ村のウィンザー小学校と学校間交流を行い、また、児童や随行の教員・保護者はホームステイしながら交流を深めてまいりました。

谷高座は、アーリントンハイツ村のサウス中学校とイリノイ大学クラナートセンター（劇場としては全米トップクラス）で日本文化紹介の一環として、歌舞伎公演を行ってきました。演し物は子どもの「菅原伝授手習鑑 車引き」と大人の「義経千本桜 吉野山」です。いつものように佐藤昌三先生の同時通

訳とユーモラスな話を交えた絶妙な解説により実力以上のありがたい評価をいただきました。また、ウィンザー小学校の子どもたち四人が、車引きの仕丁として飛び入り参加するなど、日米文化交流のお役に立てたのではないかと自負しております。ただただ残念であったのは、サウス中学校の公演の折、悪天候のため期待したほどのお客様の来場を得ることができなかつたことです。

クラナートセンターの舞台通路には、同センターの舞台に立った世界各国のアーティストの署名がずらり並んでいました。関係者のご厚意により我々訪米団全員の名前も壁に書かせていただきました。いつの日にかその署名に出会えることを祈って。



最後まで御観覧頂き

誠にありがとうございます。

また、一月のアメリカ訪問に際しましては、

みなさまの絶大なるご支援とご協力を賜り

この場をお借りして御礼申しあげます。

平成二十四年二月十二日

田 峯 観 世 音 大 祭 芝居委員長 竹 下 義 八

田 峯 観 世 音 奉 納 歌 舞 伎 谷 高 座 座 長 市 川 團 寿